

巻頭言

教育カリキュラム改正に伴う確認申請と新カリキュラム移行後の実習への準備、中教審「学士課程教育の構築に向けて」を受け、充実したFDの実施や厳格な授業時間確保の努力が求められるようになってきたことなど、この1年はめまぐるしく月日が過ぎていきました。学会員のみなさんはいかがでしたでしょうか。

また昨年後半からの世界規模の景気後退は5年後、10年後の学部、学科ビジョンをどう描いていくべきか、多忙の学科長に代わり巻頭言を任された私のような若輩者でありまして真剣な取り組みが求められていることを十分理解している、というのが年初の所感です。しかし昨年来の努力の積み重ねが少しずつ具体的なカタチを現し始めるのも2009年からであり、こころのどこかでそれを楽しみにしているところであります。

さて2008年度年次大会をお引き受けさせて頂くことになりました神戸学院大学社会リハビリテーション学科では、地域ケアの正常な発展のために地域福祉はどのように貢献しうるかを、基調講演に地域リハビリテーション推進の立場から澤村誠志先生を迎えて論議したいと考えています。ところで本学科はまだ新しく、この春に一期の卒業生を送り出します。本学科の社会リハビリテーションという言葉の理解と定着は個人的にこれからと考えていますが、短く記しますと「…社会生活を営む個人と環境との調整や環境そのものの改善を目指す…略…福祉機器やユニバーサルデザインのまちづくり、福祉工学ならびに生活支援技術を駆使し、…」となります。これに実は「すべての人々の社会生活を保障するため、社会環境が人間に社会的不利を与えている場合には、社会構造そのもののリハビリテーションを図る」という行を加える議論がありました。

社会リハビリテーション学科はまさに「学士課程教育の構築に向けて」今後学生の達成目標や学科のカリキュラムについて産みの苦しみを覚悟するところですが、昨年の大会テーマである格差の問題をはじめ年金、医療、介護の制度をみても先行き不安は拭えず、社会そのもののリハビリテーションも必要とされている気がします。一期生とそれに続く卒業生の活躍を期待するところです。

社会福祉士の資格取得の見直し、任用・活用の促進を受けて来年は新しい試験となります。私たちは次世代がいつその活躍を見せてくれるように努力しなければと思っています。(高梨 薫)

2008年度関西社会福祉学会年次大会・  
日本社会福祉学会関西西部会総会案内

標記の大会を下記のとおり開催します。会員のみなさまには、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：2009年2月28日(土) 9時30分～17時15分

会場：神戸学院大学 有瀬キャンパス  
〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518番地  
JR明石駅からバス20分  
神戸市地下鉄伊川谷駅からバス15分  
大会テーマ：地域ケア推進と地域福祉の課題

開催趣旨：日本における地域ケアはノーマライゼーションや障害者自立生活運動にみられる人権保障の立場からの積極的推進と社会保障・社会福祉費抑制策として家族介護依存の政策期待としての両面から提唱されています。それは地域ケアにみる住民参加においても同様です。また、地域ケアは属性別、分類別対応ではなく、家族ケアにみられる複合的な対応が求められ、社会福祉に限らず保健、医療、その他関連分野との総合連携が求められている課題でもあります。しかし、その総合化といったテーマからみれば、社会福祉は生活を支えることを命題にしているにも関わらず、他の領域に比べ最も縦割りの法律に制約されている分野といえるかも知れません。近年、日本ではこれらの課題を公民協働による地域福祉として解決していこうとしています。本大会では、地域ケアの正常な発展のために地域福祉はどのように貢献しうるのか、またしえるのかを関連領域の課題を絡めながら論議します。

基調報告は、神戸学院大学総合リハビリテーション学部顧問の澤村誠志先生にお願いしました。澤村先生は地域リハビリテーションの推進の立場から国際的な立場でご活躍され、兵庫県リハビリテーションセンターを拠点としながら日本の地域リハビリテーションを牽引された重鎮です。この場合のリハビリテーションとは医学的リハビリテーションに限らず「全人間的復権」という立場からウェルビーイングを実体化させる広範な領域を持つ実践的概念であるととらえています。

さらに、これを受けたシンポジウムは、公衆衛生と大阪府社会貢献事業のSVの立場から西垣氏をコメントーターに加え、兵庫県内の福祉行政運営、地域福祉に詳しい松原氏のコーディネーターのもと、住民と協

働した地域ケア実践として兵庫県明石市の在宅介護支援センターワーカーの永坂氏、兵庫県旧五色町で医療保健福祉の包括的ケアを先駆的に実践された松浦氏、地域福祉計画やコミュニティソーシャルワーク研究の立場から松端氏に問題提起していただく予定です。

### プログラム

<受付> 9時30分～

・神戸学院大学 15号館 1Fにて受付

<口頭発表> 10時30分～12時30分

・神戸学院大学 15号館 1F各演習室

(休憩 12時30分～13時00分)

※昼食は各自

<総会> 13時10分～13時50分

・神戸学院大学 15号館 1F M151

(以下、会場は同教室)

<基調講演> 14時00分～15時10分

テーマ：地域ケアにおける総合連携の課題と展望

—地域リハビリテーションの視点から—

講師：澤村誠志 (兵庫県リハビリテーションセンター顧問)

<シンポジウム> 15時20分～17時20分

テーマ：地域ケア推進と地域福祉の課題

シンポジスト 永坂美晴 (ライフケア明海)

松浦尊磨 (甲南女子大学)

松端克文 (桃山学院大学)

コメンテーター：澤村誠志 (同上)

西垣千春 (神戸学院大学)

コーディネーター：松原一郎 (関西大学)

<懇親会> 18時00分～19時30分

・明石キャッスルホテル (JR明石駅近辺)

※年次大会の終了後、懇親会を開催します (会費は3,000円、学生は1,500円)。会員相互の研究交流や情報交換の場として、有益な時間になりたいと思います。ふるってご参加くださいますようお願いいたします。

大会参加費 無料

※ただし懇親会は3,000円 (学生1,500円)

大会および懇親会の申し込み・問い合わせ先

・神戸学院大学 総合リハビリテーション学部

藤井博志 研究室

E-mail: hfujii@reha.kobegakuin.ac.jp

電話&ファックス: 078-974-1797

※「関西社会福祉学会参加、懇親会参加申し込み」と明記し、お名前、ご所属、連絡先をお書きの上、メールもしくはファックス、郵送等で申し込んでください。

※同封の申込書をご利用いただいても結構です。

※懇親会費は当日受付にてお払いください。

大会・懇親会ともに当日参加も歓迎いたします。

(藤井博志)

### 自由研究発表の募集

1. 申し込みの締め切りについて

発表を希望する方は、メールにて、2月2日(月)までに、氏名、所属、主題について、松端までメールにてご連絡ください (受信後、確認のためメールを返信します)。

また、自由研究発表要旨を次の要領に従い、2009年2月22日(日)までに下記の宛先まで、メールにて送信してください。

2. 自由研究発表要旨と資料について

今大会の自由研究の発表要旨は、全国大会の要領に準じて、以下のようにいたします。

(1)用紙サイズ・枚数

1発表につきA4版1ページの横書き

(2)余白

上下左右25mm (目安)

(3)フォント

主題—12ポイントゴシック

副題—10.5ポイントゴシック

所属—9ポイント明朝 氏名—10ポイント明朝

会員番号—9ポイント明朝

キーワード—9ポイント明朝

※以上を用紙の上側に罫線で囲んで記載してください。

見出し—10ポイントゴシック

本文9ポイント明朝 1行48～50字程度

(4)自由研究発表要旨と資料について

提出いただいた自由研究発表要旨は、当日の大会・総会資料と一緒に綴じ込み配布いたします。

また、当日配布資料については、各自印刷の上、50部を持参してください。

3. 宛先

郵送の場合 〒594-1198 和泉市まなび野1-1

桃山学院大学 社会学部 松端克文

Tel 0725-54-3131 (代)

E-mailの場合 katufumi@andrew.ac.jp

(松端克文)

## 第3回日本社会福祉学会

### フォーラムについて (予告)

2009年7月25日(土)に、第3回日本社会福祉学会フォーラムが、関西で開催されます。テーマは未定ですが、「家族支援」「家族福祉」等のディスカッションが中心となる予定です。会場は京滋を予定しています。詳しくは、後日お知らせいたします。ご予約ください。

(山辺朗子)

## 第16回若手研究者・院生情報交換会案内

本年度の「若手研究者・院生情報交換会」は、下記の内容で、3回実施しました。第13・14回が理事会の企画で、第15回が若手中心の企画でした。毎回、刺激的な内容で、大変興味深い企画だと、「古手」からも注目されています。第16回については未定ですが、来年度も3回の開催を計画していますので、ご期待下さい。ご協力いただいた会員の皆さま、ありがとうございました。

・第13回：7月13日(日)同志社大学・新町キャンパス溪水館、20名

テーマ：「専門職の倫理綱領について考えよう～ソーシャルワークの倫理的ジレンマを解決するために～」

報告者：小山 隆 (同志社大学)

・第14回：9月28日(日)キャンパスプラザ京都・龍谷大学サテライト教室、15名

テーマ：「南アフリカの社会福祉実践・研究・教育～南アフリカでの留学経験を踏まえて～」

報告者：阪口春彦 (龍谷大学短期大学部)

・第15回：11月22日(土)龍谷大学・深草キャンパス、約20名

テーマ：「関西で研究するとは～関西で研究する魅力について～」

報告者：田岡由美子 (龍谷大学短期大学部)、田垣 正晋 (大阪府立大学)、中根 真 (龍谷大学短期大学部)  
(上掛利博)

## 「関西周辺の研究会・学会のご案内」

関西で行われる、福祉系の小さな学会や研究会の情報があれば、可能な範囲で掲載してはどうかということが役員会で決まりました。ニュースレターが年二回の発行ですし、確実な発行日も決まっていませんので、たまたま日程が合えばということになりますが、情報いただければ掲載検討します。

地域福祉国際シンポジウム 『地域福祉における学際連携～日本、アメリカ、イスラエル～』 (ご案内)

日時：2009年1月31日(土) 午後1時～5時30分  
場所：同志社大学 新町キャンパス 臨光館201教室  
参加費：無料

シンポジスト：テリー・ミズラヒ (米国 Hunter College School of Social Work、教授)、ヨシー・コラジム＝コロシー (イスラエル社会省、政策・計画担当局長)、上野谷加代子 (同志社大学社会学部、教授)

共催団体：日本地域福祉学会、Association for Community Organization and Social Administration

(米国)、同志社大学社会福祉教育・研究支援センター  
後援団体：関西社会福祉学会

概要：地域福祉における学際連携に関する国際比較研究を行ってきた、2人の著名な研究者を海外から招へいし、国際シンポジウムを開催します。元全米ソーシャルワーカー協会会長であり、Encyclopedia of Social Work の編者としても著名なミズラヒ教授と、イスラエルの地域福祉政策を推進するコラジム＝コロシー氏と共に、日本、アメリカ、イスラエルの地域福祉における学際連携について、議論を深める予定です。当日は、ヘッドホンによる同時通訳を提供します。

参加申込 (受付期限：2009年1月25日)：【Eメール】(1)お名前 (2)ご所属 (3)交流会参加希望の有無をご記入のうえ、[mail@chiikifukushi.jp](mailto:mail@chiikifukushi.jp) まで Eメールにてお申し込みください。【FAX・郵送】以下のリンクから参加申込書(pdf)をダウンロードして、FAXまたは郵送にてお申し込みください。

<http://www.chiikifukushi.jp/docs/flyer.pdf>

### 【連絡先】

同志社大学社会学部 上野谷研究室気付 地域福祉国際シンポジウム事務局

住所：〒602-0047 京都府京都市上京区新町今出川上ル

Email：[mail@chiikifukushi.jp](mailto:mail@chiikifukushi.jp)

FAX：075-251-3066

シンポジウムホームページ：

<http://www.chiikifukushi.jp>

(上野谷加代子)

## 第13回若手研究者・院生情報交換会報告

2008年7月13日、同志社大学新町キャンパスにおいて「第13回 若手研究者・院生情報交換会」が開催されました。

今回は「専門職の倫理綱領について考えよう—ソーシャルワークの倫理的ジレンマを解決するために—」というテーマで、同志社大学の小山隆先生から貴重なお話をいただきました。当日の京都は、最高気温35度という初夏とは思えないほどの猛暑日でしたが、約20名の参加者が会場に集まり、外の熱気に負けないほどの熱い議論を交わしました。

わが国のソーシャルワークにおいて、その普遍性や固有性を明らかにしようと、多くの研究者が取り組んできました。ソーシャルワークの固有性を明らかにする作業の焦点は、看護・医療・保健分野などにおける他の専門職との「違い」を明確にすることに置かれる傾向があります。今回の情報交換会においても、小山先生が大変な労力で収集された他の専門職団体の倫理綱領と見比べる作業を行いました。結果的には、大きな違いはあまり見られず、反対に多くの共通点が存在することを確認しました。小山先生は「固有性（違い）にこだわるのではなく、共通性に目を向ける視点」を指摘され、「たとえば、『対人援助職共通の倫理綱領』なるものが存在することになれば、そこを始点として、福祉・看護・医療などの分野に応じて専門分化という積み重ねが見られるのではないか」と述べられました。

この小山先生の指摘は、私を含めた多くの参加者にとって、とても印象的なものになり、その後のディスカッションにおいても、この内容を中心に議論が展開されました。

初めての参加でしたが、研究室を飛び出して、他大学の先生や先輩方と共に学ぶことは大きな刺激となり、得難い時間を過ごすことができました。

(大阪市立大学大学院 生活科学研究科  
前期博士課程2年 柴田 綾子)

## 第14回 若手研究者・院生情報交換会報告

関西社会福祉学会が主催する「第14回若手研究者・院生情報交換会」は、2008年9月28日(日)、キャンパスプラザ京都にて、14名の参加者を得て開催されました。今回の報告者である阪口春彦先生(龍谷大学短期大学部)には、「南アフリカの社会福祉実践・研究・教育—南アフリカでの留学経験を踏まえて—」というテーマ設定の下、貴重なご報告を頂きました。具

体的には、①南アフリカにおける社会福祉実践現場の現状や、②anti-oppressive social work(反抑圧的ソーシャルワーク)などにみる社会福祉研究、③国際的な視野に立った社会福祉教育、④南アフリカで開催された国際ソーシャルワーク学校連盟(IASSW)の第34回大会について、さらには、先生のご経験に基づいた留学のコツについてもご教授頂きました。発表は、たくさんの写真をスライドで見ながら進められ、先生の留学中のご活動はもちろん、南アフリカの自然・人々の生活までもが感じ取れました。また、余談ですが、強盗に遭われた体験談には驚かされました。

南アフリカには、かつてのアパルトヘイトによる人種差別や貧困、エイズ、犯罪など厳しい現実があります。anti-oppressive social work(反抑圧的ソーシャルワーク)とは、そのような問題を社会的・政治的に捉え、その抑圧の構造を解き明かし実践に反映させようとするアプローチであります。南アフリカという国の歴史には、anti-oppressive social workの基盤となる思想が根づいており、現在のソーシャルワーク教育にも反映されているのではないかと感じました。

会の後半では質疑応答の時間が設けられ、会場の参加者からは普段触れる機会のない南アフリカの社会福祉について、積極的に質問がなされました。我々院生にとっては、平生では、得がたい機会をあたえて頂き、非常に実りある時間となりました。

(龍谷大学大学院 社会学研究科  
博士前期課程2年 渡邊寿江)

## 第15回 若手研究者・院生情報交換会報告

第15回の情報交換会は、2008年11月22日(土)に龍谷大学深草キャンパスにて開催されました。「関西で研究するとは—関西で研究する魅力について—」をテーマとして、講師に田岡由美子先生(龍谷大学短期大学部)、田垣正晋先生(大阪府立大学)、中根真先生(龍谷大学短期大学部)をお迎えしました。今回の情報交換会は若手研究者・院生が企画・運営を担ったため、若手研究者・院生が抱える先行き不安の解消方法や将来のキャリア形成の指針等を、現在関西で活躍されている先生方の講演を参考にさせていただくことを会の趣旨とし、15名の方々に参加していただきました。

田岡先生からは、じっくり関心テーマを深めていくことの大切さや、生活や実践経験を通して研究テーマが深化すると同時に、学びが生活・実践活動に反映されていくこと、さらに院生生活は不安ではあるが深く学べる貴重な時期であることをお話いただきました。

中根先生からは、関西以外での教員経験を踏まえたうえで、勤務校による業務内容・研究環境の違いや勤務地による研究内容の変化、仕事と生活のバランスをとるための工夫、生活に変化があったからこそ研究者としてだけではなく生活者としての立場から発見できる研究テーマがあることをお話いただきました。

田垣先生からは、院生時代と現在の研究の関連や、研究・学内業務のバランスのとり方、日常生活を大切にしつつも研究を継続的に行っていくために時間を配分する工夫について具体的にお話いただくとともに、院生時代に研究を継続する力を身につけていくことが必要であることをお話いただきました。

関西で研究する魅力としては、交通アクセスがよいことで学会や研究会等の研究交流が容易になり、研究のしやすさにつながることを先生方から共通に挙げられました。関西のなかでも特に大阪には地域福祉活動のモデルとなる地域や先進的な障害者施策を策定している地域が多いため、研究の刺激になることが挙げられていました。また関西に限らず、各地域にそれぞれの研究テーマがあることも挙げられていました。

講師の先生方からは、院生時代に（不安を抱えながらも）じっくりと研究を蓄積しておくこと、蓄積したことが就職後に活かされるといった院生時代にしておくことに加えて、生活の変化に応じて研究時間の確保や研究テーマも変化していく（変化せざるを得ない）こと、またそのような変化が新たな研究につながっていくこと、このような生活と研究のかかわりを経ることによって研究自体にその人の人間性が自ずと滲み出てくることをお話いただき、院生の研究生活や将来のキャリア形成にとって大変参考になると同時に、励みをいただく機会になりました。

(大阪府立大学人間社会学研究科  
博士後期課程3年 岩本華子)

## B会員会費納入のお願い

日本社会福祉学会の関西部会の方は自動的に関西社会福祉学会の会員（A会員）となり、会費は日本社会福祉学会からの還元金を当てることとなります。

一方、日本社会福祉学会の関西部会員でない方、日本社会福祉学会の会員ではないが関西社会福祉学会の会員である方（B会員）の年会費は2,000円です。従って、B会員の方で、本年度（2008年度）会費2,000円を未納の方は、納入していただくようお願いいたします。会費納入が3年間ない方については、B会員を退会したものとして扱わせていただきます。

なお、B会員の方で、日本社会福祉学会関西部会の会員になられた方は、お手数ですが事務局までご連絡ください。なお、今年度（2008年度）から会費の納入方法が変更されています。

### B会員会費納入方法の変更について

事務局担当校の変更にともない、引き継ぎの都合上3つあった学会名義の口座を1本化したため、今後は次の銀行口座に年会費（2,000円）を納入していただきますようお願いいたします。その際には、ご利用の個人名義口座から学会名義口座への振り込みをしていただくと、振込者の氏名が学会通帳に記帳され、こちらの確認作業が容易になり助かります。なお、振込手数料につきましては、各自でご負担いただきますよう、お願い申し上げます。

金融機関 三菱東京UFJ銀行

支店 大阪営業部

口座名義 関西社会福祉学会

口座番号 4530873

(空閑浩人)

機関紙担当から

今年度2回目のニュースレターを発行することができました。2月28日の年次大会には、ご多忙のこととは存じますが、是非ご参加下さい。

また、3回開催いたしました若手研究者・院生情報交換会の報告も掲載いたしました。ご覧下さい。

(福富昌城)

関西社会福祉学会ニュースレター

発行日 2009年1月25日

発行者 会長 岡本民夫

関西社会福祉学会事務局

事務局 龍谷大学

〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5

龍谷大学 6号館現場実習指導室気付

電話：077-544-7223

FAX：077-544-7229